

招 集 期 日	平成 3 0 年 4 月 1 8 日 (水)		会議の場所	教育委員室
会議の時刻	開会の時刻	午後 3 時 0 0 分	開 会 者	教 育 長
及び宣告者	閉会の時刻	午後 4 時 2 0 分	閉 会 者	教 育 長
委 員 出 席 状 況				
氏 名	摘 要	氏 名	摘 要	
秋 本 文 子 教 育 長	出 席	高 瀬 賢 一 委 員	出 席	
春山教子教育長職務代理者	出 席	平 野 博 之 委 員	出 席	
柿 沼 拓 弥 委 員	出 席			
議 事 参 与 者 及 び 説明のための出席者	佐藤学校教育部長	赤坂生涯学習部長	須永教育総務課長	細村学校教育課長
	小島学校給食センター所長	岡田生涯学習課長	水野スポーツ振興課長	奥野図書館長兼郷土資料館長
書 記 名	教育総務課総務係 横山			
会議事件名	て ん 末			
開会		4 月定例教育委員会を開会		
日程第 1 前回会議録の承認	教育長	<p>教育委員会の会議は原則公開であるが、人事に関する事件等について出席委員の 3 分の 2 以上の多数で議決したときは公開しないことができる。本日の日程のなかで非公開とすべき案件はないため、全て公開としてよろしいか。</p> <p>異議なしの声あり</p>		
	教育長	<p>3 月定例教育委員会の会議録について諮った。</p> <p>異議なしの声あり</p>		
	教育長	<p>前回会議録は、承認された旨宣した。</p>		
	教育長	<p>報告事項 1 について学校教育部長及び生涯学習部長から説明を求めた。</p>		

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第 2 報告事項 1 平成 30 年 3 月 定例市 議会提出（教育委員 会関係）議案等につ いて</p>	生涯学習部長	<p>平成 30 年度羽生市一般会計予算の議案に対し、永沼正人議員から伝堀越館跡建物解体工事請負費 550 万円について、整備の将来像等の質疑があった。伝堀越館跡は市内藤井上組に所存する史跡で、二重堀が現存する方形型の館跡であり、中世の史跡であると考えられている。平成 30 年度予算に計上した工事請負費は、敷地内の門と土蔵 1 棟を残して、母屋や納屋等を解体・撤去するものである。解体後には、調査などを実施し、史跡の時期や内容を明らかにするとともに、地域の方々の意見を聞きながら、保存管理計画を策定して整備を進める旨を答弁した。</p>
	学校教育部長	<p>平成 30 年度羽生市一般会計予算の議案に対し、島村勉議員から国際交流の推進について質疑があった。羽生市中学生海外派遣事業の目的は、姉妹都市バギオ市と国際交流を図るために、市内中学生の代表を派遣し親善を深めるとともに、海外での生活体験を通して、国際社会で活躍できる羽生市民の育成を図ることを目的として実施していること、事業内容は、12 名の生徒を派遣し、体験、交流活動を通し、現地の生活様式、文化を学び、国際感覚を身につけ、見聞を広め、コミュニケーション能力を高めることの必要性を学ぶことであると説明した。</p>
	生涯学習部長	<p>平成 30 年度羽生市一般会計予算の議案に対し、中島直樹議員から、宝蔵寺沼ムジナモ自生地植生回復事業 863 万 8 千円の具体的な事業内容について質疑があった。事業の主なものは、ムジナモ自生地等において、給排水ポンプの稼働や観察記録などをお願いしている管理作業員の賃金、ムジナモ保存検討委員会の開催に係る報奨金、埼玉大学に環境調査や保護増殖の研究を委託する、ムジナモ保護増殖委託料、自生地内の草刈りを年 3 回行う、宝蔵寺沼ムジナモ自生促進業務委託料、などである。ムジナモは、埼玉県レッドデータブックで「野生絶滅」となっているが、安定した自生が見られる今、「野生絶滅」からの脱却を視野に入れられるようになった。引き続き、自生地内でのムジナモの安定生育を維持するため、本予算を計上した旨を答弁した。</p> <p>同議案に対し、中島直樹議員から、バドミントン教室の開催 70 万 7 千円の、数あるスポーツの中でバドミントンとなった理由と</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>予算の内訳について質疑があった。バドミントン教室を選定した理由は、日本選手の国際大会での活躍等により、本市でのバドミンントンの競技人口が増加傾向にあり、スポーツ少年団バドミントン部会での要望も厚かったことなどを総合的に勘案し、今までスポーツ少年団の中で未実施であったバドミントン教室を新たに取り入れたもので、予算の内訳は、講師等に対する企画運営委託料 25 万円、教室を開催する上で必要な消耗品や講師等の弁当、スポーツ推進委員の報酬として 45 万 7 千円を計上した。バドミントン連盟やスポーツ少年団バドミントン部会との連携を深め、協力を得て、受講生の競技力向上及び指導者の指導力向上に繋がるよう実施する旨、答弁した。</p> <p>同議案に対し、野中一城議員から、トップアスリート育成事業について質疑があった。1 点目の「平成 29 年度の参加人数等の状況及び平成 30 年度の見込み」については、平成 29 年度は、少年野球教室では、スポーツ少年団野球部会の各団員及び指導者が 314 名、剣道教室では、中学生を含む羽生市剣道連盟加入団体及びスポーツ少年団剣道部会が 128 名、合計 442 名の参加があったこと、平成 30 年度は、少年野球教室及び剣道教室は、同等数の参加、新たに実施するバドミントン教室は、100 名程度の参加を見込んでいることを説明した。2 点目の「平成 29 年度は剣道、平成 30 年度はバドミントンと新規競技を展開しているが、毎年度増やしていく方針なのか」については、平成 30 年度に計画したバドミントン教室は、未実施の種目として取り入れたもので、これにより、スポーツ少年団加盟団体の種目は全て実施することとなった。今後の開催種目の選定については、様々な要素を考慮する必要がある、状況を踏まえながら検討したいと説明した。3 点目の「トップアスリート事業後のフォローアップ」については、この事業の実施により、子ども達の競技力の向上のみならず、指導者や保護者も、より高いレベルでの指導方法を学ぶことから、日常的なフォローアップにつながっており、市としても、これまで実施した各教室の結果等を、今後の事業展開に反映させていく旨を答弁した。</p>

会議事件名	て ん 末	
	学校教育部長	<p>齊藤隆議員から、就学援助についての一般質問があった。まず、「羽生市の要保護及び準要保護の児童生徒の状況、準要保護の対象基準」については、今年度の支給対象者は、全体の 13.38%で、僅かではあるが、年々増加していること、他の自治体の多くは、準要保護者の認定基準について、総所得が生活保護基準により算定される需要額の 1.3 倍以下を基準としているのに対し、羽生市は、需要額の 1.5 倍以下とし、認定の範囲を広げていることを説明した。次に、「各小中学校の就学援助制度の周知」については、毎年、「就学援助費支給制度のお知らせ」を学校を通じて全保護者に配布しており、市内転入者向けパンフレットに就学援助制度について掲載したり、児童扶養手当の手続き時に資料を渡すなど、関係各課へ協力を依頼していること、さらに、年度途中でも援助を受けるべき対象者がいる場合は、申請を促すよう学校に依頼するなど、様々な手法で周知を図っていることを説明した。続いて、「各小中学校での民生委員・児童委員と教職員との懇談会等で就学援助制度などの情報交換」については、民生委員・児童委員と教職員との懇談会において、今年度は 14 校中 6 校で、就学援助制度の活用についての情報交換が行われたこと、校長研究協議会を通し、今後も、民生委員や児童委員との懇談会等がある際は、積極的に就学援助制度についての情報交換を行うように、指導していくことを説明した。続いて、「保護者への就学援助制度の周知及び活用の勧奨。教職員の子どもの貧困に対する理解・家庭における学習支援等の今後の取り組み」については、保護者への制度の周知及び活用の勧奨は、市内全ての学校で実施されており、新入生の保護者には、入学説明会の際、「就学援助支給制度のお知らせ」を配布し、学校の教職員が直接説明を行っており、他学年は、入学説明会前後の時期に「お知らせ」を配布していること、活用の勧奨については、学校ごとに就学援助費の受給が必要と思われる保護者に対して、個別に行っていること、学校現場での子どもの貧困に対する理解の増進については、各校において年度当初に、教職員の共通認識を図っており、子どもの貧困をテーマとした校内研修を実施している学校もあること、羽生市教育委員会としては、校長研究協議会を通して、校内研修で子どもの貧困について取り上げ、就学援助制度のさらなる理解や校内における教職員の共通理解と連携の強化を図るよう指導していくことを説明した。</p>

会議事件名	て ん 末
	<p>家庭における学習支援等の今後の取組については、小学生においては、「学力アップ羽生塾」の開催場所を増やし、より参加しやすい環境づくりに努め、中学生においては、社会福祉課の事業の更なる活用を図るなど、関係部署やスクールソーシャルワーカー等と連携を図りながら、貧困家庭やその子どもたちにとって、よりよい学習支援の方策を見出していくと説明した。最後に、「平成29年3月に改正された補助金要綱に基づいた就学援助が行われたのか」については、平成30年度より新入学児童生徒学用品費の入学前支給を実施する予定で進めていることを答弁した。</p> <p>野中一城議員から、中学校の部活動についての一般質問があった。1点目の、「通っている学校に競技の部活動が無い場合で、中体連の大会に参加するための教育委員会、学校が支援できる方策」については、埼玉県中学校体育連盟の規定に示されているように、通っている学校に無い部活動競技において大会に参加したい場合、保護者からの申し出で、校長が参加の可否について判断し、可能であると判断した場合、参加申し込みを学校から行っており、市内中学校では、通っている中学校に無い部活動競技において、大会に参加している生徒がいることを説明した。2点目の、「通っている学校に新たな部活動を作りたい場合、どのような条件が整い、どのようにすれば創設できるのか、その方法」については、部活動の創設、廃部等は、各中学校の校長が生徒数、教職員数、施設・設備、生徒や保護者の要望等の条件を鑑みて、校長はその責任において総合的に判断し、決定しており、新たな部活動を創設する要望等が高まれば、その可能性はあるが、最終的には各校長の判断によるものであることを説明した。3点目の、「団体競技を存続させていくためにも、柔軟に市内の合同チームでの活動を可能にしていくことが必要と考える見解」については、県中体連は合同チームによる大会参加規程として、現在ある部活動が、単独では大会参加が難しい場合に、合同で大会参加を可能にするための制度を定めており、市内でも部員減少等により大会参加ができなくなってしまう場合、市内合同チームを編制できるように各中学校に働きかけていくと説明した。4点目の、「部活動の活動方針及び活性化させていく具体的な方策」については、平成28年3月の県からの通知では、平日の活動時間は原則として2</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項2 平成30年度当初教職員人事異動について</p> <p>報告事項3 小・中学校における3学期の表彰等の結果について</p>	<p>教育長</p> <p>学校教育課長</p> <p>学校教育課長</p>	<p>時間以内、週休日の活動は原則としてどちらかを休みにするものとし、効率のよい練習や適切な休養日を設定することを求めていること、生徒がゆとりを持ちながら目標に向かって取り組める部活動にすることが大切であると考えていること、羽生市教育委員会としては、国や県の通知やガイドラインを受け、部活動を活性化できるように3中学校に働きかけていくと答弁した。</p> <p>報告事項2、3について学校教育課長から説明を求めた。</p> <p>小学校での転退職者は、退職者51名、転任者16名、転補者17名の合計84名。これに対し転入・新採用者は、新採用者46名、転任者18名、転補者16名の合計80名となった。管理職の異動は、校長が2校、教頭が8校であった。中学校での転退職者は、退職者28名、転任者5名、転補者5名の合計38名。これに対し転入・新採用者は、新採用者23名、転任者5名、転補者6名の合計34名であった。管理職は、校長の異動はなく、教頭は3校全てが異動となった。また、主幹教諭昇任者は3名であった。</p> <p>各学校の上位の受賞について報告する。羽生北小学校では、6年生の児童3名が第1回全国プレゼンテーションコンクールin羽生で最優秀プレゼン清水卯三郎賞、1年生と5年生の児童が、第58回埼玉県小・中学校児童生徒美術展で特選を受賞した。新郷第一小学校では、5年生の児童が埼玉県読書感想文コンクールで特選を受賞した。新郷第二小学校では、1年生と4年生の児童が第58回埼玉県小・中学校児童生徒美術展で特選、3年生の児童が第70回埼玉県書き初め展覧会で特選賞、3年生と5年生の児童が第48回世界児童画展で特選を受賞した。須影小学校では、6年生の児童が第70回埼玉県書き初め展覧会で特選賞を受賞した。岩瀬小学校では、1年生と3年生の児童が第58回埼玉県小・中学校児童生徒美術展で特選、1年生の児童が埼玉県読書感想文コンクールで特選、6年生の児童が第48回世界児童画展で特選を受賞した。川俣小学校では、1年生と6年生の児童が、埼玉県読書感想文コンクールで特選を受賞し</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項4 平成30年3月 市内中学校 卒業者の進路状況について</p> <p>報告事項5 平成29年度学校給食 実施状況について</p>	<p>学校教育課長</p> <p>教育長</p> <p>給食センター所長</p>	<p>た。井泉小学校では、3年生の児童が第70回埼玉県書き初め展覧会で金賞を受賞した。手子林小学校では、5年生の児童が第61回J A共済全国小中学校書道コンクールで全国農業協同組合中央会会長賞を受賞した。三田ヶ谷小学校では、6年生の児童2名が、第58回埼玉県小・中学校児童生徒美術展で特選を受賞した。村君小学校では、4年生の児童が第70回埼玉県書き初め展覧会で優良賞を受賞した。羽生南小学校では、5年生の児童が埼玉県読書感想文コンクールで特選を受賞した。西中学校では、2年生の生徒2名と1年生の生徒1名が、第1回全国プレゼンテーションコンクール in 羽生で最優秀プレゼン清水卯三郎賞、1年生と2年生の生徒が第58回埼玉県小中学校児童生徒美術展で特選を受賞した。南中学校は、第46回J A共済全国小中学校交通安全ポスターコンクールにて学校賞を受賞した。東中学校では、2年生と3年生の生徒が第58回埼玉県小中学校児童生徒美術展で特選を受賞した。羽生市の子どもたちは読書・書き初め・絵画・作文など様々な分野で活躍をしている。</p> <p>平成29年度も平成28年度同様に公立の高等学校に進学する生徒が多かった。西中学校は76.7%、南中学校は79.1%、東中学校は70.3%、市全体では約75%が公立に進学している。</p> <p>報告事項5から7について学校給食センター所長から説明を求めた。</p> <p>給食人員は、小学校2,838人、中学校1,530人、給食センター33人、計4401人、実施延べ人数は、小学校530,584人、中学校285,412人、給食センター6,517人、計822,513人であった。給食納付金調定額の合計212,590,514円と、賄い材料費219,651,754円の差額については、消費税率が5%から8%になった際の3%上乗せ分を市から補助することとした分である。なお、給食納付金の収納率については、99.6%となっている。</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項9 羽生市市民講師登録 制度平成29年度実績 報告について</p>	<p>生涯学習課長</p>	<p>専門的な知識や技術技能を持っている市民に講座や教室などの講師として活躍する場や機会を提供し、市民講師の育成と自立を図るものである。平成29年度の実績は、手子林公民館にて、「子ども手作り教室」～デコパージュでオリジナルバッグを作ろう！～等、4講座を行い、参加人数は延べ57名であった。なお、平成30年3月現在の登録講師数は50名である。平成29年度は、講師の募集を中心に進めたため、実績は4件のみであったが、平成30年度は公民館だけでなく、市民団体等からも利用されるよう、更なる制度の周知を進めたい。</p>
<p>報告事項10 第31回羽生市陸上競技 記録会の開催について</p>	<p>教育長</p>	<p>報告事項10から12についてスポーツ振興課長から説明を求めた。</p>
<p>報告事項11 平成30年度トップアス リート育成事業 羽生 市少年野球教室の開催 について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>羽生市と羽生市教育委員会の主催として本年も引き続き開催する。羽生市体育協会、羽生市スポーツ少年団本部等の協力により、2回の開催を計画している。第1回目は6月2日に羽生中央公園野球場にて開催し、指導者は黒江透修氏他4名を予定している。参加対象者は、市内の小学4年生から6年生、指導者及び保護者とする。</p>
<p>報告事項12 日本フロアカーリング協会 公認 全国フロアカーリング 大会 in 羽生の開催について</p>	<p>スポーツ振興課長</p>	<p>羽生市教育委員会及び羽生市スポーツ推進委員会の主催により、6月16日に羽生市体育館にて開催する。全国大会としての開催は、今回で9回目となる。日本フロアカーリング協会、羽生ロータリークラブ、東京新聞さいたま支局に加え、今年度新たに埼</p>

会議事件名	て ん 末	
<p>報告事項13 平成29年度羽生市立図書館、郷土資料館事業概要について</p>	<p>教育長</p> <p>図書館長兼郷土資料館長</p>	<p>玉県教育委員会の後援をいただくことになった。参加対象者はフロアカーリング愛好者などで前年度の参加チームや各地区体育振興課等に案内をしている。参加申込期間は5月12日から5月18日までとし、コート数の都合により先着108チームを上限とする。</p> <p>報告事項13について、図書館長兼郷土資料館長から説明を求めた。</p> <p>まず、平成29年度の図書館事業について報告する。羽生市立図書館協議会については、平成29年6月28日と平成30年2月16日の2回開催した。図書館の利用状況については、開館日数は294日、来館者数は63,815人、貸出利用者数は61,464人、貸出利用冊数は247,516冊、視聴覚資料利用数は2,208点であった。資料購入状況について、図書資料は、一般図書3,851冊、児童図書1211冊、その他の図書と合わせて合計6,698冊を購入し、平成29年度末の蔵書冊数は180,666冊となった。視聴覚資料は、29点のDVDを購入し、既存と合わせ2,850点の所蔵となった。実施事業については、乳幼児や子どもを対象とした各おはなし会、大人を対象とした「大人のためのおはなし会」、親子を対象とした「親子で楽しむ絵本とわらべうた講座」、「聞かせ屋。けいたろう 絵本の読み聞かせ会」等、様々な事業を行い、合計15事業で86日間、参加者延べ2,477名であった。</p> <p>続いて、平成29年度の郷土資料館事業について報告する。羽生市立郷土資料館運営委員会については、平成29年6月28日と平成30年2月16日の2回開催した。収蔵資料の状況については、民俗資料23件、文書・書籍74件の計97件の資料を受け入れた。うち6件は購入したものである。29年度末の収蔵件数は受託資料を含め18,614件となった。実施事業については、展示事業は、開館30周年記念事業企画展として28年度からの継続である「収蔵資料展」、2回の企画展「動物とからだのすみか」「社寺宝物展」、通常展示は「田舎教師を彩る登場人物たち」と計4回、131日間開催、6,932名の来場者を迎えることができた。講座、研修等については、市民学芸員研修会を年2回開催、川越市立博物館での</p>

会議事件名	て ん 末	
		館外研修を行い、その他、図書館・郷土資料館まつりや企画展開連講座等を行った。社寺調査は、平成 29 年度を区切りとし、平成 30 年度からは社寺調査で集めた資料を基に報告書を作成する事業に変更し実施していきたい。
	教育長	報告事項に関して質問・意見を求めた。
	春山委員	就学援助についての市議会の一般質問に関して、年々増加している子どもの貧困について市全体でも取り組んでいただけるとありがたい。答弁の中で、教育委員会だけでなく関係部署と連携を図りながら、家庭における学習支援等、より良い学習支援の方策を講じると語られているが、これが言葉だけでなく実質的な取組になることを期待している。
	春山委員	市内中学校卒業者の進路状況について、在学中に不登校だった生徒の状況を伺いたい。
	学校教育課長	在学中に不登校となり、現在も進路未定の生徒もいるが、通信制の学校に進学した生徒もいる。
	春山委員	全国的に不登校の子どもが増加している傾向だが、中学校を卒業して通信制の学校へ進学しても、その後社会との関わりのない生活になってしまっはもったいないという気持ちや不安もある。これからも地域とのつながりなど、何ができるかを考えていかなければならないと思った。
	平野委員	市議会の一般質問での中学校の部活に関して、過剰労働にならないために、顧問の先生の負担を減らすということであるが、外部からの協力はどの程度得られているか。
	学校教育部長	学校ごとに差異があるが、3 分の 1 くらいの運動部で外部指導者が入っている。しかし、現在協力いただいている外部指導者は、国が掲げているような外部指導者制度ではなく、まったくの無償

会議事件名	て ん 末	
		<p>であり、研修や資格等の条件はない。今年度、全国で約 4500 人の外部指導者を登録し、学校に派遣することを国が予定しているが、全国の学校数と部活動数を考えると、羽生市に何人来てもらえるか、あまり期待はできない。また、土日だけではなく平日も外部指導者に来ていただきたいが、仕事を持っている方は、ほぼ無理であると考えている。これからの部活動は、外部指導者の件を含め、地域にスポーツの活動があれば移管していくなど、転換の過渡期の始まりの時期に来ていると思う。</p> <p>柿沼委員 3 学期の表彰等の結果に関して、羽生南小学校をはじめ、読書感想文コンクールで受賞した児童が目立つようになっている。市内の小学校で読書を推進した成果が出ているのではないか。</p> <p>学校教育課長 羽生南小学校は読書活動に特に力を入れており、国語の研究委嘱を受けたこともあり、読書活動を研究の柱として平成 28、29 年度の 2 年間、研究を進めてきた。特徴的な活動として、自分が読んだ本について、相手に紹介するプレゼンを行い、良いプレゼンをした児童がクラス代表、学年代表に勝ち上がっていく、「ビブリオバトル」という活動を実施している。その成果が表れていると思う。</p> <p>高瀬委員 市議会で国際交流についての議案質疑があったが、以前は派遣される生徒に、費用の自己負担があったが、今はどのようになっているか。</p> <p>学校教育部長 現在も、旅行にかかる費用の半額、約 6 万円を自己負担していただいている。</p> <p>高瀬委員 同じく市議会での部活動についての一般質問に関して、リーダー研修会を行っている中学校があるとのことだが、具体的にどのような研修会であるか。</p> <p>学校教育部長 新しく部長になった生徒を、埼玉県立加須げんきプラザに集めて 1 泊し、集団活動をしながら、部長としての振る舞い方や仲間のまとめ方などを学ぶ研修会を実施している。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	元校長や外部の講師を招いて子どもたちにリーダーとしての心構えなどを指導していくもので、とても良い取組であるため、全校に広げていければと考えている。
	高瀬委員	学校給食実施状況に関して、給食納付金の納付が 100 パーセントにならない場合の対応はどのようにしているか。
	給食センター所長	未納金については、各学校の先生が徴収にあたっているが、先生と保護者の間では話し合いが難しいこともあり、その場合は学校給食センター職員も同行している。中学校については、卒業してしまうと徴収しづらいので、3 年生を中心に未納のある保護者には、納付するよう話をしている。未納金額はだいぶ少なくなってきた。
	春山委員	羽生市立図書館の事業概要に関して、子どもの読書については、学校での取組、家庭での取組、そして市立図書館では、様々な事業を展開し、親子を対象とした催しものもあり、たくさん子どもたちが小さい頃から読書に触れている。さらにもっと広めるために、他の機関や地域に働きかける取組はあるか。また、羽生市立図書館協議会とは、どのような役割であるか。
	図書館郷土資料館館長	読書を広めるための取組としては、学校を訪れて実施しているブックトークや、スポーツ振興課が実施する体操教室の後にはおはなし会を行ったりしている。公民館等においても、おはなし会等を実施できるかもしれない。郷土資料館では、誠和福祉高校から、昔の遊びを教えて欲しいという要望があり、毎年出張講座を行っている。求めがあれば要望に答えるというかたちでも PR していきたい。羽生市立図書館協議会は、図書館法に規定されている図書館長からの図書館の運営についての諮問に答えるための機関である。公民館長の代表者、市立図書館の職員、校長会、図書館ボランティア活動の団体等、7 名で構成している。
	柿沼委員	教職員の人事異動に関して、毎年退職する先生がいるが、60 歳で退職ではもったいないと思う。子どもたちの学習支援や生涯学習の支援等、退職後に新たに協力願える仕組みができたらいと思う。

会議事件名	て ん 末	
<p>日程第3 議案第22号 平成30年度羽生市学校運営協議会設置校の指定について</p>	教育長	<p>本人の気持ちがあれば応えられるよう、報酬の関係も検討する必要があるが、研究していきたい。</p>
	教育長	<p>報告事項については、よろしいか。</p> <p>異議なしの声</p>
	教育長	<p>議案第22号 学校教育課長から説明を求めた。</p>
	学校教育課長	<p>羽生市学校運営協議会規則第3条第2項の規定により、小学校全11校を、羽生市学校運営協議会設置校に指定することについて、議決を求める。指定の期間は、平成30年4月19日から平成31年3月31日までである。</p>
	教育長	<p>議案第22号について質問・意見を求めた。</p>
	平野委員	<p>学校運営協議会の概要と構成委員について伺う。</p>
	学校教育課長	<p>学校と地域住民が力を合わせて学校を運営するために設置するもので、地域と共にある学校への転換を図るための仕組みとして全国的に導入されつつある。主な機能は、校長が作成する学校運営の基本方針を承認する、学校運営について教育委員会または校長に意見を述べるができる、教職員の任用に関して教育委員規則に定める事項について教育委員会に意見を述べるができる、の3つである。委員数は各校において15名以内で、その構成は、保護者代表、地域住民代表、公民館館長、自治会長、学校校長、その他教職員などである。</p>

会議事件名	て ん 末	
	教育長	議案第 22 号については、よろしいか。
		異議なしの声
	教育長	議案第 22 号は、可決された旨宣した。
	教育長	次回教育委員会日程について、事務局より説明の旨。
	教育総務課長	5 月定例教育委員会は、5 月 22 日 午後 1 時より、教育委員室にて開催する。
	教育長	閉会を宣した。
		教育長 _____
		委 員 _____
		委 員 _____
		書 記 _____